５（１）研究の重点目標

市の本年度の指導の重点

◎　学ぶ楽しさを実感し、深く考え、学び続けるための「確かな学力」を育む教育の推進
◎　命の尊さやふるさとの大切さを自覚し、共に生きるための「豊かな心」を育む教育の推進
◎　体を動かす楽しさを体感し、たくましく生きるための「健やかな体」を育む教育の推進

三教研の研究テーマ（第 16 期）

社会的な見方や考え方を働かせ、仲間とともによりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業

教育課程のねらい

・豊かな心をもち、たくましく生きる人間の育成
・自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成
・基礎的・基本的な内容を重視し、個性を生かす教育の充実
・国際理解を深め、わが国の文化と伝統を尊重する態度の育成

研究主題
「社会的な見方や考え方を働かせ、仲間とともによりよい社会づくりの力を育てる社会科の授業」（２年目）

◆『社会的な見方や考え方を働かせ』…社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して捉え、比較・分類したり、総合したり、地域の人々や市民生活と関連づけることである。社会的な見方や考え方を働かせるために、次の点を意識する。
・生活経験や既有の知識では理解できない社会的事象に問いをもつ子どもの姿を求める。
・社会的事象に対する見方や考え方を働かせることで、子どもは更に多面的・多角的に考察するようになる。資料を基に思考したり、フィールドワークをしたりすることを経て、社会的事象の意味や背景を深く理解していく学びを実現する。

◆『仲間とともに』…「仲間」とは、共に学びあう学級の子どもだけでなく、学びを通してかかわる人たちもすべて含めたものを意味する。よりよい社会づくりへの参画のためには、仲間とかかわりあうことが礎となるべきであると考える。そのために、次の点を意識する。
・追究において、級友とともに様々な人・もの・こととかかわりながら、「仲間」と考えを認め合い、高め合う場を重ねていくことで、考えを深める子どもの姿を求める。
・学習の対象となるすべての人とのかかわりを深め、「仲間」として意識することで、問題に対する切実感を高め、協働してより高い次元の学びへと導く。

◆『よりよい社会づくり』…『よりよい社会』とは、そこにかかわる人にとって、幸せを感じられる社会（持続可能な社会）である。よりよい社会づくりのために、次の点を意識する。
・目の前やこれから起こりうる問題を解決するために、様々な方法で追究し、仲間と互いに協働する中で、自分の考えを深め、問題の解決に迫る子どもの姿を求める。
・自分の考えと仲間の考えのよさをそれぞれ生かしながら、豊かな創造性を基によりよい解決をめざす子どもの姿を求める。
→問題の解決が見えた先にあるのが『よりよい社会』である。

【本年度の重点】

「社会的事象を多面的・多角的に考察するために、社会的な見方や考え方を働かせる姿の実現」

子どもが、世界に山積する課題に目を向け、仲間とのかかわりの中で、より多くの人が幸せになれる社会づくり（持続可能な社会づくり）とはどのようなものであるか考えようとする社会科の授業を実現したい。子どもが社会的事象に潜む問題を見いだし、解決しようとする中で、豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手として社会を見据える姿を社会科の授業で目指したい。その基礎となるのは確かな社会認識力である。より多くの人が幸せになれる社会をつくるためには、社会の現実を見極める力が必要であり、多面的・多角的な思考によって、より高度な社会認識力を養わなくてはならない。

社会的事象に潜む問題を解決するために、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関係を考察することで、子どもたちは学びを深めていくであろう。この姿が、学びの連続性を生み出し、不確かな時代を生き抜く原動力となるはずである。そこで本年度は、社会的事象を多面的・多角的に考察することを重視した単元構成を基に、子どもが社会的な見方・考え方を働かせる姿の具現化を重点に、研究に取り組みたい。

◎　よりよい社会づくりを目指し、社会的な見方・考え方を働かせて思考する子どもを育てたい。そのためには、どんな教材で、どんな単元構成を立て、どんな教師支援を行う必要があるのか。